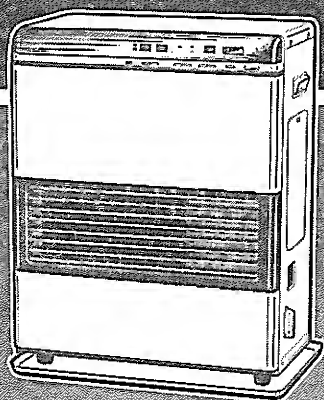
CORONA

コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

FF-406S



このたびは、コロナ石油ストーブをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

なお、お読みになった後も取扱説明書は保証書と共に必ず保管してください。

もくじ

⚠警告



KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油



株式会社コロナ

1. 特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例


⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。


⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合はガソリン禁止)が描かれています。


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

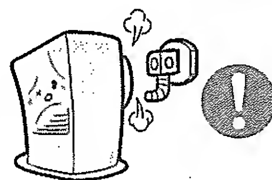
●ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。



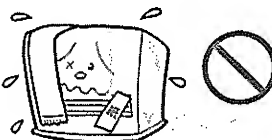
●外れ危険

給排気筒（管、ホース）が正しく接続されているか点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



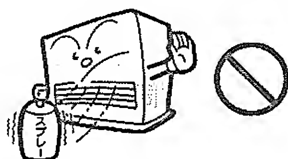
●温風吹出口をふさがないで

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



●スプレー缶厳禁

スプレー缶を温風のあたるところに放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



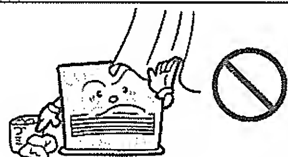
●可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ベンジン、シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

⚠注意

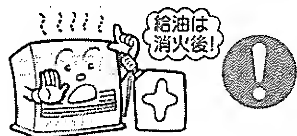
●カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
火災が発生するおそれがあります。



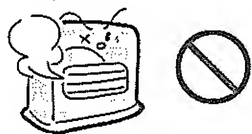
●給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。



●異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。
すみやかに運転スイッチを「停止」にしてください。



●温風に注意

温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、周囲の人が十分注意してください。

●高温部に注意

燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒など高温部に手などふれないように注意してください。
やけどのおそれがあります。



●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。
お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



⚠ 注意

●給排気筒トップ閉そく注意





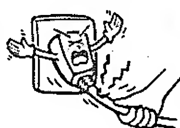
積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪でふさがれないように注意してください。
排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

●腰をかけたり、物をのせないで



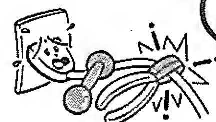
腰をかけたり、やかんや花びんなどの物をのせないでください。
やけどしたり、ストーブが変形することがあります。
また、水が内部に入ると、感電、火災、故障の原因になります。

●電源プラグ、コード





- 電源プラグの抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。コードを引っぱって抜くと、芯線の断線により、感電やショートによる発熱・発火の原因になります。
- 電源プラグやコードを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っぱったりすると電源コードが破損し、火災、感電の原因になります。





- ご使用にならないときやシーズンオフ時は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。ほこりなどの付着による絶縁劣化により、漏電や発熱・発火の原因になります。ときどき電源プラグの点検・清掃をしてください。



●電源の接続



- 電源は、必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。発熱・発火の原因になります。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。

●変質灯油に注意

変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。

●灯油の保管



灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると危険です。

●据付け上の注意

- お客様ご自身による工事は危険です。据付工事や移設工事は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
- ストーブおよび給排気筒の据付けについては、火災予防条例、石油燃焼機器の設置基準による規制がありますので、これに従って据付けてください。
- ストーブの固定は、本体固定金具などで、確実に固定してください。



●指や棒を入れないで

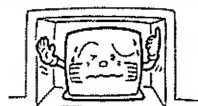
給排気筒トップに指や棒をなどを入れないでください。
ケガや火災の原因になります。



2. 使用する場所

安全に使用するために

●マントルピースなどには据付けないでください。



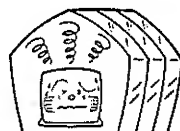


●標高が1000mを越える高地では使用しないでください。
（空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。）





●温室、飼育室、乾燥室などでは絶対に使用しないでください。

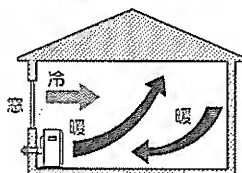




効果的に使用するために

●外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められ温風として対流しますので効果的です。

●ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ストーブ本体の温度が上昇して危険ですので、使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

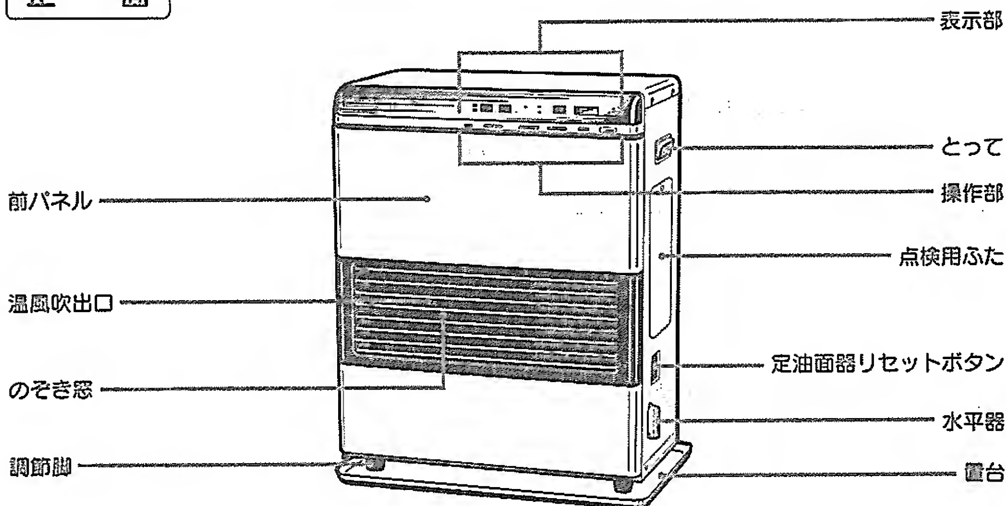


出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

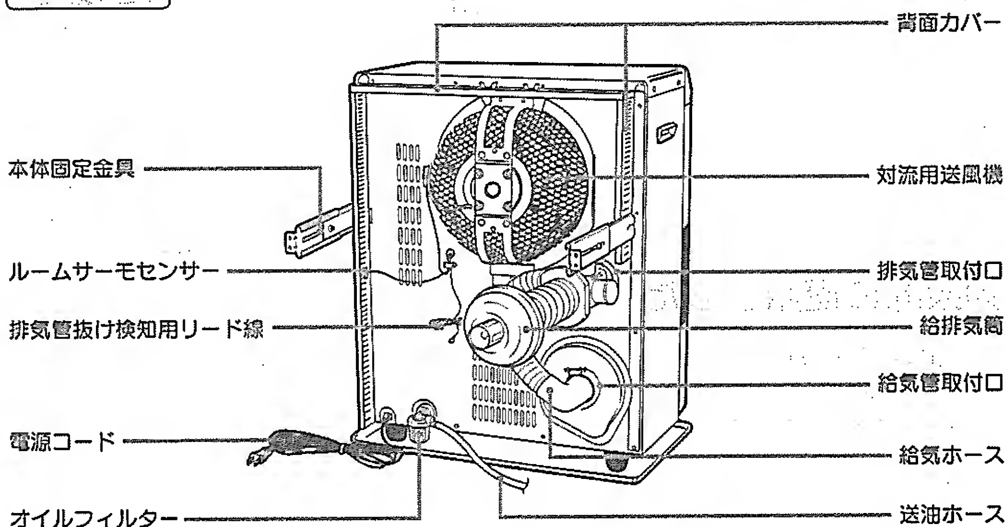
3. 各部の名称

外観図

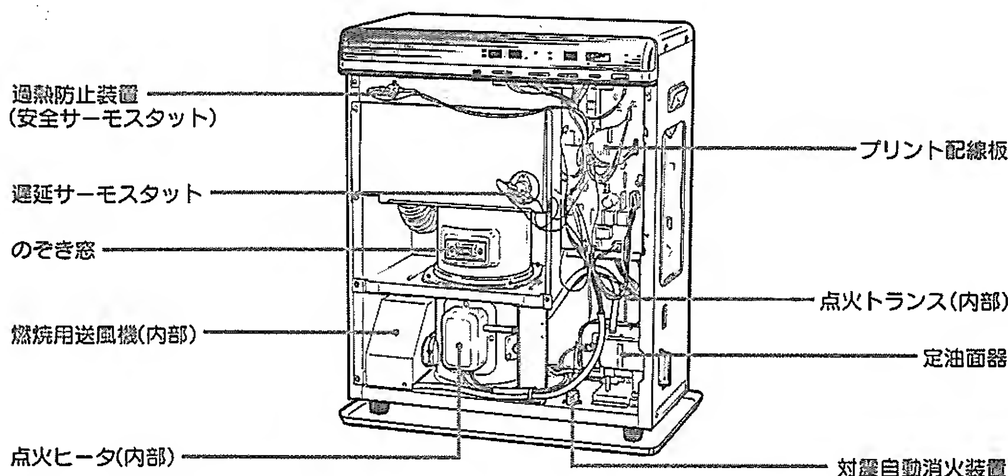
正　面



背　面

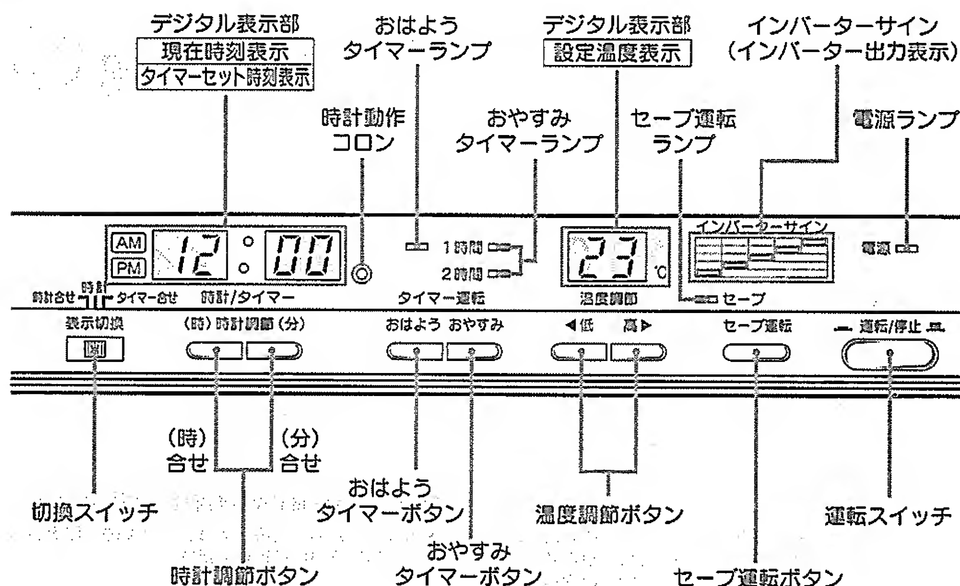


構造図



過熱防止装置
(安全サーモスタット)
遅延サーモスタット
のぞき窓
燃焼用送風機(内部)
点火ヒータ(内部)
プリント配線板
点火トランス(内部)
定油面器
対震自動消火装置

操作部・表示部



デジタル表示部
現在時刻表示
タイマーセット時刻表示
おはよう
タイマーランプ
デジタル表示部
設定温度表示
インバーターサイン
(インバーター出力表示)
時計動作
コロン
おやすみ
タイマーランプ
セーブ運転
ランプ
電源ランプ
AM
PM
12:00
1時間
2時間
23
℃
インバーターサイン
電源
時計合せ
時計
タイマー合せ
時計/タイマー
タイマー運転
温度調節
セーブ
表示切換
(時) 時計調節 (分)
おはよう おやすみ
◀低 高▶
セーブ運転
運転/停止
(時)
合せ
(分)
合せ
切換スイッチ
時計調節ボタン
おはよう
タイマーボタン
おやすみ
タイマーボタン
温度調節ボタン
セーブ運転ボタン
運転スイッチ

4. 使用前の準備

燃　料

灯油（JIS１号灯油）を必ず使用してください。

● ⚠警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。



● ⚠注意 変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。

● ⚠注意 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。



灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。（火の気のない所で行ってください。）



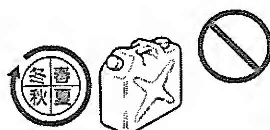
○ 灯油はぬれたまま



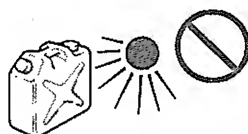
× ガソリンはすぐ乾く

■変質灯油・不純灯油とは………

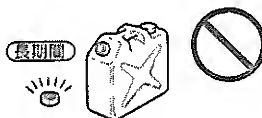
昨シーズンより持ち越しの灯油



長期間日光のあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、白いポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油



●極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
●灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油を使用すると…

- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れ込み、燃焼不良や着火不良の原因になります。

■万一変質灯油や不純灯油を使用したときは、

- お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

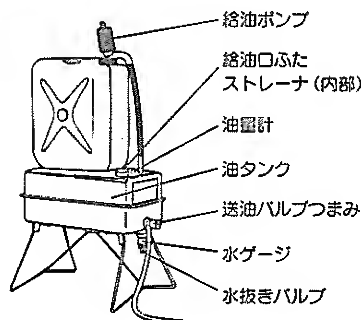
給　油

給油の際の手順と注意

● ⚠注意 給油は必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

●送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油ポンプで灯油を給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
給油が終りましたら、給油口にあるストレーナを取り出して水やごみを捨ててください。

●ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。



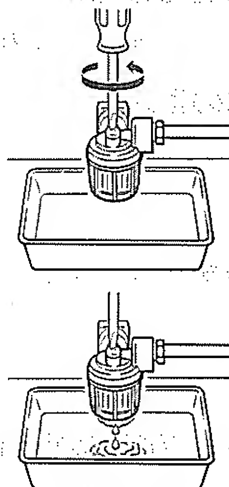
燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。
油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

1.油タンクに給油します。

2.ストーブ背面のオイルフィルターに付いている空気抜き用のねじを、ドライバーを使ってゆるめてください。

3.空気が抜けてオイルフィルターの中に灯油が満たされたら、空気抜き用のねじを締めてください。（灯油が床にこぼれないように布、容器などを用意してください。）

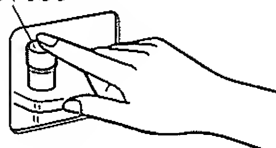


●油タンクは、空にしないように、早めに給油してください。
●初めて運転するときも、同じ手順で送油ホース内を油で満たしてから行ってください。

点火前の準備と確認

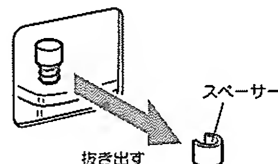
定油面器のセット

●初めて使用するときやシーズン初めに使用する場合、ストーブ右側面の角穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタンを押してください。
- 定油面器に強い衝撃を与えたりした場合も、この操作を行ってください。



●万一、点火操作後４～５分しても着火しなかったり、着火後２～３分で消火してしまう場合は、次のようにしてください。

1.スペーサーを取りはずしてください。
2.定油面器リセットボタンをいちばん下まで１～２度押してください。
灯油流入口のゴム弁の固着がはずれて灯油がスムーズに流れます。
- 10秒以上押しつづけると定油面器から油があふれることがありますので注意してください。
3.操作後はスペーサーをもとどおりに取り付けてください。



送油経路の点検

●油タンクや送油管の接合部などから油漏れがないかどうか確認してください。

電源の接続

●電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差し込んでください。

⚠注意

電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために……
●電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
●電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とタコ足配線をしないでください。

ストーブ周囲の確認

●ストーブの上や周囲に燃えやすいものがないことを確認してください。

給排気筒接続部の確認

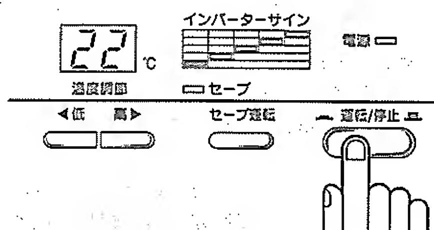
● **⚠警告** 給排気筒が正しく接続されているか確認してください。はずれていると運転中に排ガスが室内に漏れ大変危険です。

5.使用方法

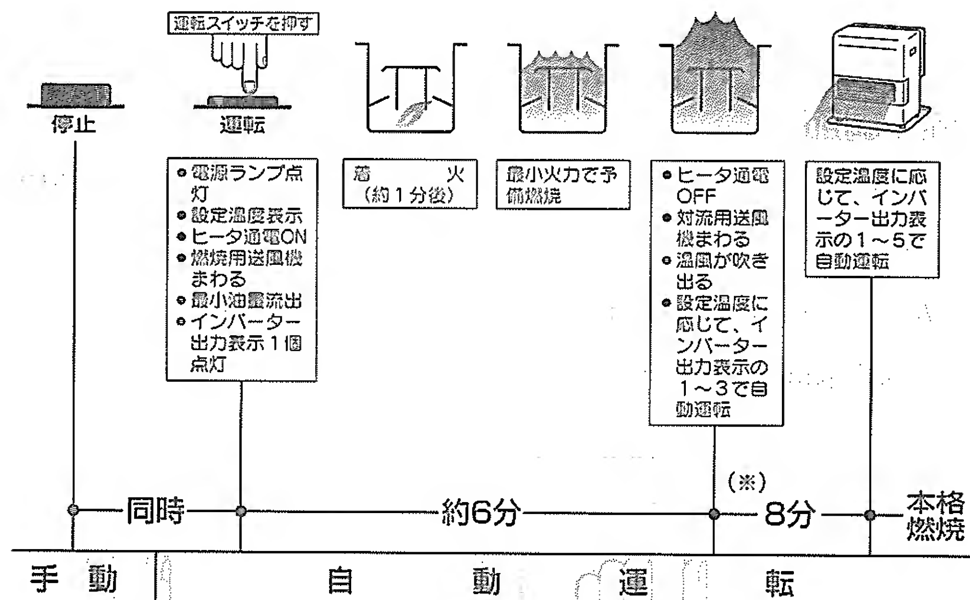
点　火

●一旦、点火操作をすると、消火操作をしても対流用送風機がまわるまで運転状態を継続することがあります。これは燃焼室内に未燃ガスを完全に燃焼させるためです。

1.運転スイッチを押してください。
電源ランプの点灯と同時に、設定温度が表示され、インバーター出力表示が１個点灯します。



2.自動的に次のように運転します。



セーブ運転を行った場合には、設定温度により、(※)の時点で消火動作になることがあります。

点　火

●デジタル表示部におはようタイマーセット時刻が表示（時計動作コロンが消灯）されているようであれば、運転スイッチを押すとタイマー運転になりますので、おはようタイマーボタンを押してタイマー運転を解除してください。

●着火後約10分間ほどは、熱膨張のため、熱交換器などが小さな音を出すことがありますが、異常ではありません。

●初めてご使用になるときは、耐熱塗料などが焼けて煙とにおいがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。

●初めてご使用になるときは、送油経路内の空気たまり（エアロック）により炎が立消えになることがありますが、一旦消火して、冷えるのを待ってからもう一度点火してください。

●燃焼中に運転スイッチを押しもどして「消火」にしたり、電源プラグを抜いたり、おはようタイマーボタンを押すなどして約５秒以上通電を止めますと自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。

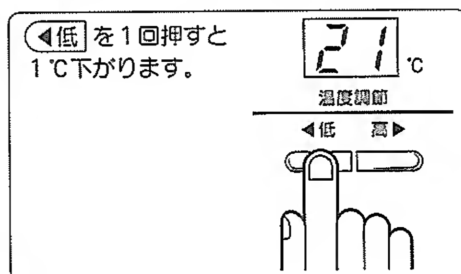
●外気温が低くなると、給排気筒の先端から連続的に白煙が出ることがあります。これは排ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。

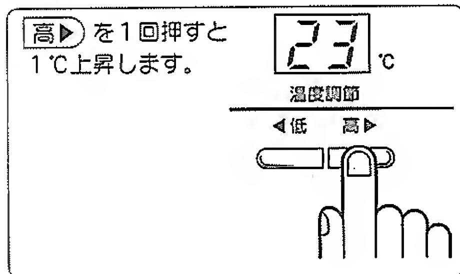
室温の調節

ストーブ運転中は、ルームサーモにより温度調節のセット温度に応じて自動的に火力が切り変わります。

■温度調節ボタン（◀低｜高▶）を押し、デジタル表示部のセット温度を希望の温度に合わせてください。

●停電があった場合でも１分間以内の停電であれば、再セットする必要はありません。





■未セットの場合、セット温度は自動的に22℃にセットされます。

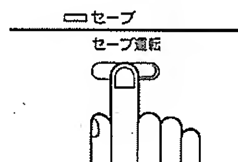
■セット温度は、16℃から30℃までの範囲がセットできます。

室温の調節

セーブ運転

最小火力でも室温が上昇する場合（気温の高いとき、日あたりの良い部屋）は、セーブ運転をお選びください。

■セーブ運転ボタンを押してください。
セーブ運転ランプが点灯し、室温がセット温度より約3℃上昇すると、自動的に消火（セーブ消火）し、セット温度まで下がると自動的に再点火して、室温を調節します。



セーブ運転を解除する場合は、もう1度セーブ運転ボタンを押してください。
セーブ運転ランプが消灯して通常運転に戻ります。

炎の状態

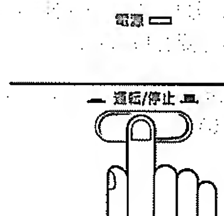
●炎の状態は青い炎の中に、いくらかの黄色い炎（赤火）がまじっても異常ではありません。

消　火

■運転スイッチを押しもどしてください。

1. 電源ランプとインバーターサインは消灯しますが、燃焼室が冷却するまで燃焼用・対流用送風機は、運転を継続します。

2. 約10分後に燃焼室が冷却され、燃焼用・対流用送風機が自動的に停止し、同時に設定温度表示が消灯します。



●外出するときは、必ず消火してください。
●長期間留守にするときは、必ず電源を切ってください。
●消火操作後温風が出ている間は、絶対に電源プラグを抜かないでください。
もし抜きますと、のぞき窓がすすでくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後再点火するときの注意

■燃焼中に誤って次のような操作をすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまで点火できませんので注意してください。

- 電源プラグを抜いた。
- 運転スイッチを押しもどした。
- おはようタイマーボタンを押し、タイマー動作をした。

●ただし、瞬間的な消火操作もしくは停電（いずれも、約５秒以内）の場合は、そのまま燃焼します。

タイマーの使用方法

現在時刻合せ・タイマー時刻合せ

1. 時計調節の切換スイッチを〔時計合せ〕または〔タイマー合せ〕にします。

●セットする前は、デジタル表示部は(AM)0:00の点灯を表示します。

現在時刻セットの場合

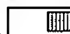
時計合せ　時計　タイマー合せ
表示切換





タイマー時刻セットの場合

時計合せ　時計　タイマー合せ
表示切換





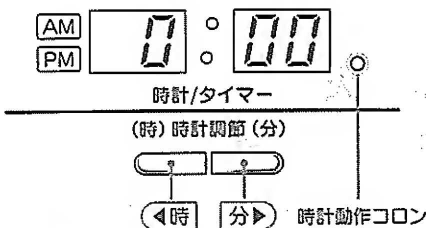
2. 時計調節ボタンの(◀時|分▶)を押して現在時刻またはタイマー点火時刻をセットしてください。

●(◀時|ボタンで時刻表示部を合わせたときはAM・PMを確認してください。

●|分▶)ボタンで時刻表示部を合わせたとき、現在時刻セットの場合は、１分ごとに、タイマー時刻セットの場合は、５分ごとに動きます。

●(◀時|分▶)ボタンを押しつづけると、表示は連続して変わります。

●12時設定の場合は、０ではなく、12に合わせてください。







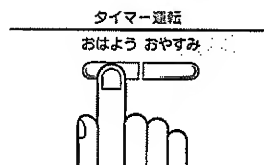
3. 切換スイッチを〔時計〕の位置に合わせてください。
時計動作コロンが点滅に変わり時計動作を開始します。

タイマーの使用方法

●必ず時計動作コロンが点滅することを確認してください。点滅しない場合は、切換スイッチが〔時計〕になっていないか、または、おはようタイマーボタンが押されたためタイマー点火時刻を表示しています。
●1分以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要ありません。それ以上の停電で、時刻表示部が0：00を表示したら時刻合わせを行ってください。
●1分以内の停電であれば、再通電後もタイマーセット時刻は記憶されています。
セット時刻を変更するとき以外はタイマー時刻セットは不要です。

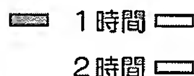
おはようタイマー

■ストーブ停止中からのタイマーセット方法



1. おはようタイマーボタンを押してください。
現在時刻表示がタイマーセット時刻に切り変わり、時計動作コロンが点滅から消灯に変わります。

2. 運転スイッチを押してください。
おはようタイマーランプが点灯して、セット完了です。



必ずタイマーのセットを先に行ってください。
（運転スイッチを先に押しますと、いったん運転状態になります。）

■ストーブ運転中からのタイマーセット方法

おはようタイマーボタンを押してください。
●現在時刻表示がタイマーセット時刻表示に切り変わり、時計動作コロンが点滅から消灯に変わります。
●電源ランプとインバーターサインが消灯し、消火動作に入ります。
●おはようタイマーランプが点灯します。
これでセット完了です。

タイマーの使用方法

■おはようタイマーの解除

●おはようタイマーボタンを押します。おはようタイマーランプが消灯し、時刻表示部に現在時刻が表示され（時計動作コロンが点滅）、タイマー運転が解除されます。
●このままであれば自動的に燃焼を開始します。停止する場合は、運転スイッチを押しもどしてください。

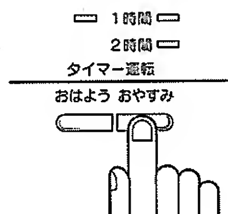
外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは絶対にしないでください。

おやすみタイマー

■おやすみタイマー運転

●おやすみタイマーボタンを押してください。
設定時間のおやすみタイマーランプが点灯し、設定時間経過後自動消火します。
- 1回押す ―― 1時間運転後自動消火
- 2回押す ―― 2時間運転後自動消火

（このとき運転スイッチは、運転状態のままにしておいてください）



■おやすみタイマー運転の解除

●おやすみタイマーボタンを押して、おやすみタイマーランプを消灯させてください。
●この状態で、おはようタイマー運転されていない場合は燃焼が継続しますので、消火するときは運転スイッチを押しもどしてください。

おはようタイマーと、おやすみタイマーの同時運転

1.おやすみタイマーをセットしてください。
2.おはようタイマーをセットしてください。

●必ず、おやすみタイマーのセットを先に行ってください。
おはようタイマーのセットを先に行いますと、一旦消火して燃焼部が冷えてからでないと、再点火できません。

使用上の注意

- ⚠注意 給排気筒は高温です。やけどに注意してください。
- ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
  ストーブや給排気筒に不適当な熱交換器などを取り付けると排ガスの水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して給排気筒を塞ぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。
  また、ストーブの寿命を短くする原因にもなります。

6. 安全装置

安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検・処置を行ってください。
処置後の点火操作は点火の項に従ってください。

対震自動消火装置

地震や強い衝撃を受けたときは対震自動消火装置が作動して自動的に消火します。
（E3表示）

対震自動消火装置は自動的に再セットされます。点検後、点火操作をしてください。

点火安全装置

- 異常燃焼を防止するため、点火ヒータおよび燃焼用送風機に通電される前に、燃料が流出することのない構造になっています。

停電安全装置

停電や電源プラグがコンセントから抜けたときは、すべての運転を停止します。
（ただし、5秒以内の停電の場合は、燃焼を継続します。）

停電復帰（再通電）後デジタル表示部にE7が表示され、ストーブは運転しません。
再度点火操作をしてください。

過熱防止装置（安全サーモスタット）

対流ファンガードや温風吹出口がふさがれたり、ストーブ前面に障害物があるなどして本体内部が過熱すると過熱防止装置が作動します。（表示部全消灯）

原因を取り除き、本体内部が十分冷えてから点火操作をしてください。

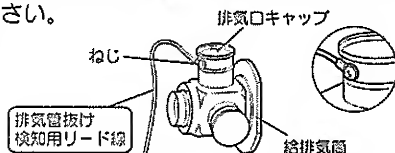
7. その他の装置

排気管抜け検知装置

排気管の接続部がはずれたときや、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したときには、安全装置が作動し、エラー表示E5を出し、消火します。
排気管抜け検知装置が作動している場合は、エラー表示E5がでて点火できません。

排気管抜け検知装置にたよらず、給排気筒や延長管を月に1度は点検してください。

原因を調べ、処置後点火操作をしてください。



排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。

再点火安全装置

消火直後、ストーブが冷却しないうちに再点火操作をしても、燃焼室の温度が一旦冷却してからでないと燃焼しないようになっています。

8. 日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後ストーブが十分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。

ストーブとストーブ周囲の点検

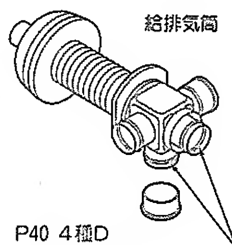
1. ⚠注意 ストーブの周囲は、常に整理・清掃し、燃えやすいものを置かないでください。
2. ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
ストーブは、いつも清潔にしてご使用ください。
3. 置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
また給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。
4. 送油用ゴムホースは、ひび割れやふくれがないかシーズン初めに点検してください。
異常のある場合は、交換してください。

油漏れのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

給排気筒及びトップの周囲の点検

●給排気筒及び排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。

●給排気筒を一度取りはずして、再び取り付けるときは、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。



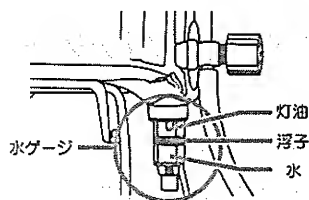
●給排気筒及びトップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。

●給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。
シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり、異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

油タンクの水抜き

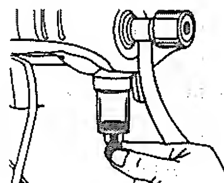
別売TC-40K形油タンクの場合

油タンク内には、水やごみがたまりやすく、多くたまるとストーブの方へ流出して、灯油の流れを妨げて十分な火力が出なくなります。
ときどき水ゲージを点検して、次のように水を抜いてください。



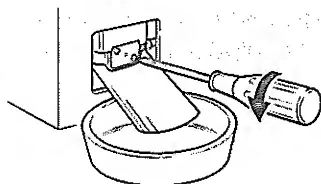
1.水がたまると灯油と水との境界面に赤色の浮子が浮きあがります。浮子が上まで浮きあがらないうちに、油タンク内の水を抜いてください。

2.水抜きバルブの下に容器を置いて、水抜きバルブを少しゆるめますと油タンク内の水が出て、浮子が沈みます。
水を抜いたら水抜きバルブを固く締めてください。
油漏れがないか必ず確認してください。



定油面器ストレーナの掃除

定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
水やごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。
シーズンの終りには、次のように掃除してください。
（定油面器内の灯油を抜くときも同じ方法で行ってください。）

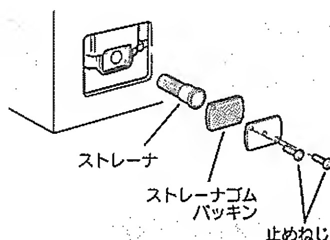


1. 油タンクの送油バルブを閉じてください。

2. ストーブ右側面にあるストレーナの掃除口に荷札などの厚紙を差し込んで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてください。

3. ストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。

4. ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。（水で洗わないでください）

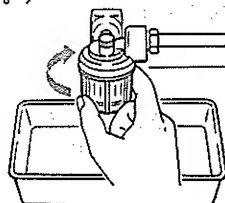


組立てるときは
- ストレーナゴムパッキンを忘れないようにしてください。
- ストレーナを逆に入れないでください。
- ストレーナの止めねじを、固く締めつけてください。
- 油漏れがないか確認してください。

オイルフィルターの掃除

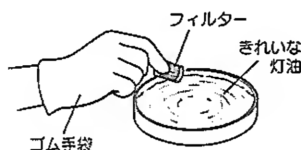
オイルフィルターに水やごみがたまった場合は、次のように掃除を行ってください。
（オイルフィルターの灯油を抜くときも同じ方法で行ってください。）

1. 油タンクの送油バルブを締めて、オイルフィルターの下にできるだけ大きめの容器を用意してください。



2. オイルフィルターのプラスチックのカップを手でゆっくりと左にまわしてはずし、カップにたまったごみや水を取り除いてください。

3. オイルフィルターを真下に引いてはずし、きれいな灯油ですすぎ洗いしてください。（水で洗わないでください。）



点火ヒータの点検

点火ヒータや点火しんにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸い上げが悪くなったりして点火しにくくなり、着火不良の原因になります。

●点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので（燃焼用空気の気密性保持のため）、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

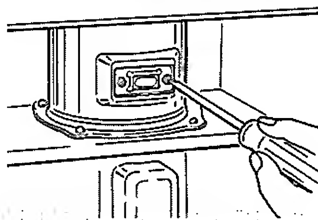
ポットバーナの点検

●バーナ内部や燃焼リングの点検は高度な技術を必要としますので、お買い求めの販売店に依頼してください。

のぞき窓の透明度が悪くなったとき

のぞき窓をはずしてふく場合は、次のようにしてください。
前パネルをはずし、のぞき窓をとめているねじをはずして、少し水を含ませた布でふいてください。

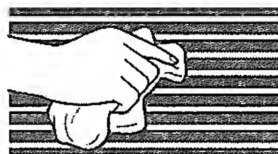
●ねじ部は常温になってからはずしてください。
●もとどおり、均一にねじを締めて固定してください。



温風吹出口の掃除

温風吹出口や本体の上面などには、ほこりが付着して白くなります。
湿った布で汚れをおとしてから、やわらかい布でからぶきしてください。

温風吹出口羽根を曲げたり、変形させたりしないよう注意してください。



熱交換器の点検

熱交換器の内部にすすが異常にたまりますと、不完全燃焼の原因になります。

●異常燃焼が起こった場合には、バーナの点検とあわせて熱交換器の点検を、お買い求めの販売店に依頼してください。

対流用送風機の掃除

対流用送風機のガードにほこりがたまると、音が大きくなって温風量が少なくなり、暖房出力が低下すると同時に、ストーブ内の温度が異常に高くなって、過熱防止装置（安全サーモスタット）が作動する場合があります。
１週間に１度は、次の手順に従って対流用送風機を取りはずして掃除をしてください。

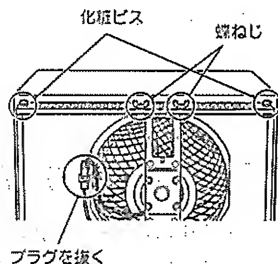
対流用送風機のはずしかた

1. 背面カバー(上)を固定している化粧ビスをとってはずしてください。

2. 対流用送風機のリード線プラグを抜いてください。

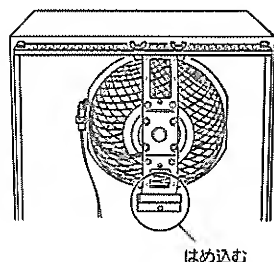
3. 蝶ねじをはずしてから、対流用送風機を後に傾けながら上方へ引き出してください。

4. 掃除機などでモーター、羽根、ガードについたほこりを取り除いてください。
羽根を曲げたり、変形させないよう注意してください。



対流用送風機の組付けかた

■対流用送風機をはずしたときと逆の順序で、もとどおりに取り付けてください。
このとき、対流用送風機の下側のゴムの部分をプラスチックの溝にはめ込んでください。



対流用送風機は、ときどき点検し、定期的に掃除を行ってください。

9.定期点検

定期点検のおすすめ

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。
2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店又は修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL.03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

地震などの災害が発生したときの点検について

地震などの災害が発生し、製品に振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
●給排気筒回りのはずれ、漏れの確認　●灯油配管からの漏れ確認
点検で異常がみつかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

10.故障・異常の見分け方と処置方法

次のような現象は故障ではありません。
修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

	現象	説明
点火時・消火時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりなどが焼けるためです。 しばらく窓を開けて換気してください。
点火時・消火時	初めて使用するときや、シーズン初めの初使用時に、点火しない。 点火しても2～3分で消火してしまう。	●定油面器リセットボタンをセットしてください。 （9ページ参照） ●送油経路内の空気抜きをしてください。 （8ページ参照）
点火時・消火時	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
点火時・消火時	点火してもすぐ温風がでない。	不快な冷風を出さないためであり本体内部が暖まると温風が自動的に吹き出てきます。
点火時・消火時	消火しても温風が出ている。	本体内部が冷却するまで送風を継続します。
燃焼時	炎の中にときどき赤火が混じる。	異常ではありません。
その他	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。

万一、具合の悪いときは下記の早見表にもとづいて点検し、処置にこまるようなときや、原因のはっきりしないときは、お買い求めの販売店に連絡してください。

―早見表―

現象 ＼ 原因	点火しない	火力が大きくならない	異常燃焼する	のぞき窓がくもる	火が途中で消えてしまう	突然火が消え運転がとまった	電源ランプもつかない運転しない	油漏れがある	においがする	エラー表示	処置方法
点火ヒータの断線	●									E2	販売店に修理を依頼する
点火ヒータと点火しんとの関係位置が悪い	●									E2	販売店に修理を依頼する
油タンクに灯油がない	●									E2	給油する
					●					E1	
燃焼リングが正しくセットされていない			●	●						―	販売店に修理を依頼する
定油面器に水、ごみの目づまり	●									E2	ストレーナをはずして掃除する。油タンクの水を抜く。
		●								―	
					●					E1	
送油ホースに空気たまりがある	●									E2	送油ホースを振る。山形になっている所は平に直す。
		●								―	
					●					E1	
ストーブが傾斜している			●	●						―	ストーブを水平に調節する
排気管の配管が長い、曲り箇所が多い			●	●						―	延長３m、曲り３箇所以下にする。
強い地震があったまたは、ストーブに衝撃を与えた					●					E3	P22「地震などの災害が発生したときの点検について」の点検項目を確認し、運転スイッチを押しなおし、再点火する。
灯油に水が混入している		●								―	灯油をとりかえ、定油面器の掃除をする
					●					E1	
排気管の接続部にスキマがある									●	―	排気管の接続箇所を正しく取り付ける
給排気筒の先端がおおわれている		●	●	●						―	おおっているものを取り除く
連絡パイプの袋ナットが締まっていない								●	●	―	締め直す（販売店に修理を依頼する）
電源コードの断線	●					●	●			―	販売店に修理を依頼する
過熱防止装置の作動（安全サーモスタット）	●				●		●			表示部全消灯	原因を取り除いた後、再点火する
排気管抜け検知装置の作動	●				●		●			E5	排気管の接続部及び排気管抜け検知用リード線の接続部のはずれがないか点検しはずれていたら正しく接続する。

11. 部品交換のしかた

● ⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店又は修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

●長期間の使用により消耗・劣化しやすい部品
　点火ヒータ（点火しん）・パイロットリング・Oリング・パッキン類
●変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品
　定油面器・点火ヒータ（点火しん）・ポットバーナ

12. 保管（長期間使用しない場合）

シーズンオフや長期間使用しないときは、次の要領で手入れを行い保管してください。

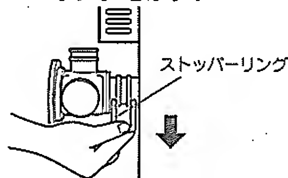
1.電源プラグをコンセントから抜いてください。
2.背面カバー(上)、対流用送風機をはずし、羽根とガードのほこりを掃除機などで取り除いてください。(21ページ参照)
3.前パネルをはずして、掃除機などで内部のほこりを取り除いてください。
4.油タンクの灯油は全て抜き取ってください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと油タンクが腐食する原因になります。
5.オイルフィルターと定油面器内の灯油を抜き取ってください。（19ページ参照）
6.塗装部分は、湿った布で汚れを落してから、からぶきしてください。
7.ストーブはできるだけ据付けたまま保管してください。
　●温風吹出口や背面の対流用送風機にほこりなどがたまらないようカバーをかけてください。(別売の本体化粧カバーのご使用をおすすめします。)
　●どうしても取りはずして保管されるときは、ポリ袋に入れ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
　●次シーズンに据付けを行うときには、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

取扱説明書も大切に保管してください。

収納方法

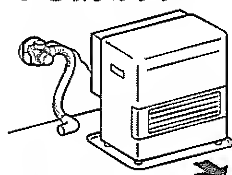
ストーブを取りはずして収納したいときは、次のように行ってください。

1.ストッパーリングをはずす



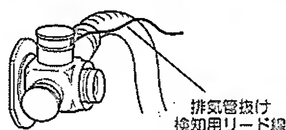
●ストーブと給排気筒を固定しているストッパーリングをはずしてください。

2.ストーブを取りはずす



●給排気筒からストーブを取りはずしてください。

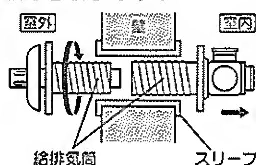
3.排気管抜け検知用リード線をはずす



●給排気筒に接続されている排気管抜け検知用リード線（灰色）をはずしてください。

取りはずしたストーブはポリ袋をかぶせ、段ボール箱に入れて保管してください。

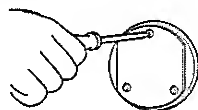
4.給排気筒を取りはずす



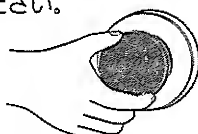
●室内側を固定し、室外側を回して給排気筒を壁から取りはずしてください。

5.スリーブふたを取り付ける
（壁に取り付けたスリーブはそのままにして）

●給排気筒を取りはずした後の穴を付属のスリーブふたでふさいでください。



室内側は、室内用スリーブふたでふさいでください。



室外側は、室外用スリーブふたでふさいでください。

●次シーズンに据付ける場合は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
●給排気筒、排気管の中についている接続部漏れ止め用Oリングを調べて、いたんでいたら新しいOリングをお求めの上、交換してください。

13.仕様

仕　様

形式の呼び		FF-406S（基本形式 404S）
種類		ポット式・強制給排気形・強制対流形
点火方式		電気点火式
使用燃料		灯油（JIS 1号灯油）
燃料消費量	最大	0.48L/h
	最小	0.20L/h
発熱量（入力）	最大	16,560kJ/h（3,960kcal/h）
	最小	6,900kJ/h（1,650kcal/h）
熱効率	最大	94.5%
	最小	91%
暖房出力	最大	4.36kW, 15,640kJ/h（3,750kcal/h）
	最小	1.74kW, 6,280kJ/h（1,500kcal/h）
標準適室	温暖地	木造 18㎡(11畳)まで　コンクリート 25㎡(15畳)まで
	寒冷地	木造 20㎡(12畳)まで　コンクリート 30㎡(18畳)まで
外形寸法		高さ600㎜　幅500㎜　奥行324㎜　（置台を含む）
質量		20kg
電源電圧及び周波数		単相 100V　50／60Hz
定格消費電力 50／60Hz		最　大 110/110W（点火初期に短時間発生） 点火時 96/92W・燃焼時 55/50W
給排気筒呼び径		D40
給排気筒壁貫通部孔径		75㎜
排気温度		230℃
電流ヒューズ		5A
安全装置		対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置・過熱防止装置(安全サーモスタット)
その他の装置		排気管抜け検知装置・再点火安全装置
付属品		給排気筒セット1・型紙1・本体固定金具2・置台1・送油ホース・ 60Hz風量制御板1

外形寸法図

470
標準設置
給排気筒取付穴(Φ75)
給気管取付口(Φ40)
88
12
300
134
500
12
235
125
77
600
569
2°
294
372
単位 mm

配線図

5A
電源ヒューズ
電源
点火トランス
点火ヒータ
対流モータ抵抗
対流モータ
燃焼モータ
ルームサーモ
電磁ポンプ

送油経路図

定油面器
定油面器
リセットボタン
送油バルブつまみ
油タンク
オイルフィルター
ポットバーナ
送油管
電磁ポンプ
送油ホース
送油バルブ

14. アフターサービス

保証について

●このコロナ密閉式石油ストーブには保証書がついています。「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受けとりになり、大切に保管してください。
●保証期間はお買い上げいただいた日から１年間です。
●次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんでの注意してください。
■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
■誤った使用方法による故障や事故。

修理を依頼されるとき

●本書の「故障・異常の見分け方と処置方法」（22・23ページ参照）の項に従って調べても良くならないときは、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。
●保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは
●お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間
●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打ち切り後７年です。

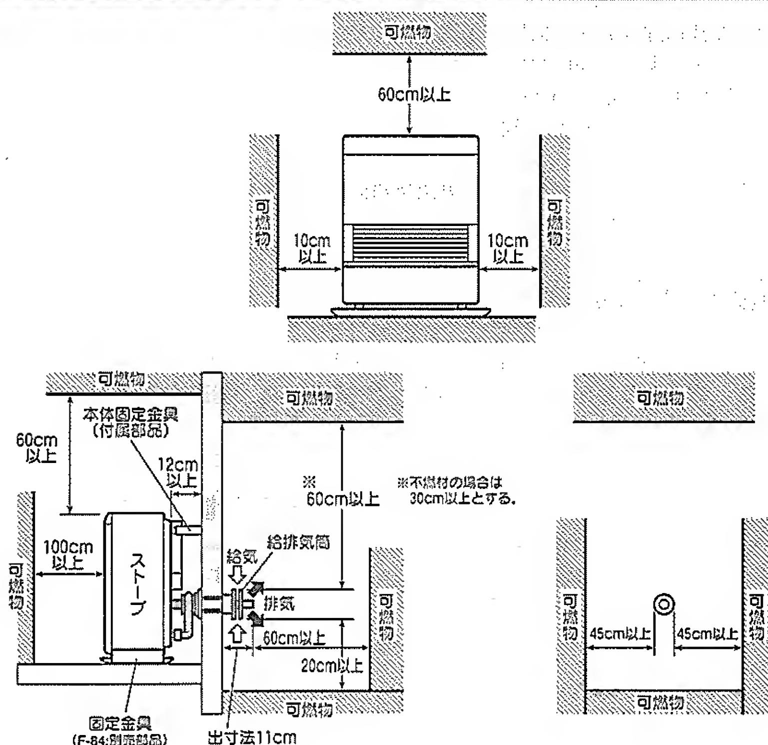
15. 据付け

据付け場所の選定及び据付け要領

1. ⚠注意 ストーブの据付けについては、火災予防条例など各種の規制があります。据付け工事は、販売店・工事店に依頼してください。
2. ⚠注意 積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。
3. 電源プラグは、必ず適正配線された単相100Vのコンセントに差し込んでください。
4. 地震などによる転倒防止のため、付属の本体固定金具を使用し、壁面にしっかり固定してください。
本体固定金具が使えない場所では、床固定金具（F-84：別売部品）を使用し、床に固定してください。

●ストーブは、壁またはは床に必ず固定してください。
●転倒防止のため、固定できない場所では使用しないでください。

標準据付け例



据付け工事後の確認

1.ストーブが壁または床に、固定金具で固定されていることを確認してください。
2.丈夫な床面に据付けられていることを確認してください。
3.ストーブ及び給排気筒と周囲の材料との距離は火災予防条例で規制されています。
「標準据付け例」を参考にし、確認してください。
4.給排気筒の貫通部及び、寸法は工事説明書の「給排気筒の取付け」を参照して確認してください。
5.延長設置の場合は、延長３ｍ以下、曲り３箇所以下で行ってください。
6.油タンクはストーブより、２ｍ以上離れているか確認してください。

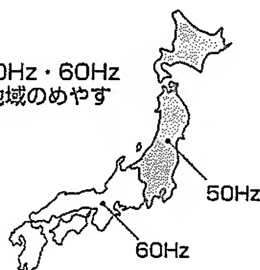
●ストーブに付属している送油ホースまたは指定のホース以外は、使用しないでください。
●送油ホースを屋外では使用しないでください。

7.適切な位置に電源コンセントが設けられているか、また電源コードが給排気筒に触れていないか確認してください。

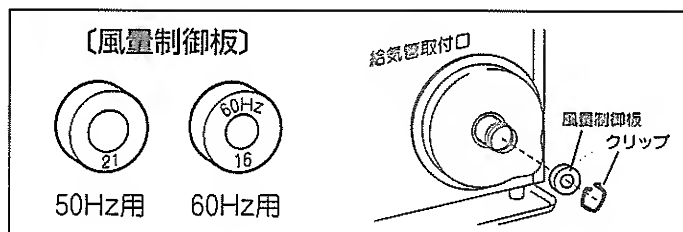
据付け工事後の確認

周波数の確認

このストーブは、電源の周波数により使用する風量制御板が異なります。
工場出荷時には、50Hz用の風量制御板 刻印「21」が組み付けてあります。60Hz地域でご使用の場合は、付属の風量制御板 刻印「16 60Hz」に交換してください。



ストーブ背面右下の給気管取付口内にあるクリップをはずし、「風量制御板」を取りはずして交換してください。



試運転

1.運転準備（詳しくは、7～9ページを参照してください）
①送油経路内の空気抜きをしてください。
②運転スイッチが〔停止〕になっているか確認してください。
運転スイッチを〔運転〕のまま電源プラグをコンセントに差し込むと、E7が表示されます。
この場合は、一旦運転スイッチを押しもどしてください。
③電源プラグをコンセントに差し込んでください。
④定油面器リセットボタンを軽く押し下げてください。
⑤ストーブの置台の上や送油管の接続部に、油たまりや油漏れがないか確かめてください。

2.運　　転（詳しくは、10～13ページを参照してください）
①油タンクの送油バルブを開いてください。
②運転スイッチを押してください。電源ランプ・設定温度表示・インバーターサインが点灯し、5～6分後に対流用送風機がまわり温風が出ます。
初めてお使いになるときは、ストーブ内の送油管に灯油がみたされておりませんので炎が立消えることがあります。この場合は、一旦消火して、冷えるのを待ってからもう一度点火してください。
初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙とにおいがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
③運転スイッチを押しもどしてください。
電源ランプ・インバーターサインが消灯し約10分後に、燃焼用・対流用送風機が止まり、設定温度表示が消灯します。

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。
名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

地区	名称	所在地	〒	TEL
北海道地区	札幌支店	札幌市白石区平和通16丁目南1-19	〒003	TEL(011)864－0440(代表)
	お客様相談窓口			TEL(011)864－6631
	札幌サービスセンター	札幌市白石区米里2,228-43	〒003	TEL(011)871－1000(代表)
	函館営業所	函館市亀田中野町6-30	〒041	TEL(0138)46－2228(代表)
	旭川営業所	旭川市東旭川南1条2丁目2-5	〒078	TEL(0166)37－2330(代表)
	帯広営業所	帯広市西12条南1丁目30-1	〒080	TEL(0155)35－7518(代表)
	釧路営業所	釧路市中園町2-5	〒085	TEL(0154)24－4191(代表)
	北見営業所	北見市美芳町9-1-30	〒090	TEL(0157)26－2103(代表)
東北地区	青森支店	青森市古館大柳55-1	〒030	TEL(0177)42－8255(代表)
	青森サービスセンター	青森市古館大柳55-1	〒030	TEL(0177)43－2071(代表)
	秋田営業所	秋田市泉金の町2-2	〒010	TEL(0188)64－5671(代表)
	八戸営業所	八戸市売市字弥市55	〒031	TEL(0178)24－5288(代表)
	弘前営業所	弘前市田園1-2-1	〒036	TEL(0172)28－3910(代表)
	仙台支店	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-32	〒983	TEL(022)235－3181(代表)
	仙台サービスセンター	仙台市若林区卸町東5-7-20	〒983	TEL(022)288－3434(代表)
	郡山営業所	郡山市鳴神1-24	〒963-02	TEL(0249)52－6955(代表)
	山形営業所	山形市南原町3-7-11	〒990	TEL(0236)42－3255(代表)
	盛岡営業所	盛岡市門2-1-42	〒020	TEL(0196)22－4791(代表)
	いわき出張所	いわき市好間町下好間字渋井14-1	〒970-11	TEL(0246)36－7870(代表)
	水沢出張所	水沢市佐倉河字佐野103-3	〒023	TEL(0197)25－4835(代表)
	庄内出張所	酒田市錦町1-183-1	〒998-01	TEL(0234)31－0671(代表)
関東地区	東京支店	北区豊島8-4-8	〒114	TEL(03)3927－1151(代表)
	東京サービスセンター	北区豊島8-4-8	〒114	TEL(03)3911－1131(代表)
	水戸営業所	水戸市見川町2131-926	〒310	TEL(029)241－2172(代表)
	千葉営業所	千葉市花見川区幕張本郷4-7-2	〒262	TEL(043)274－1145(代表)
	大宮営業所	大宮市吉野町1-332-6	〒330	TEL(048)651－1231(代表)
	つくば出張所	つくば市松代4-9-16	〒305	TEL(0298)56－5585(代表)
	横浜支店	横浜市戸塚区原宿町1137-7	〒245	TEL(045)852－4008(代表)
	横浜サービスセンター	横浜市戸塚区原宿町1137-7	〒245	TEL(045)852－4602(代表)
	立川営業所	立川市西砂町1-66-13	〒190	TEL(0425)31－4271(代表)
	甲府出張所	中巨摩郡竜王町篠原370-1　山中ビル1F	〒400-01	TEL(0552)79－5121(代表)
	高崎支店	高崎市問屋町西1-3-22	〒370	TEL(0273)61－4806(代表)
	高崎サービスセンター	高崎市問屋町西1-3-22	〒370	TEL(0273)63－8955(代表)
	宇都宮営業所	宇都宮市平出町2313	〒321	TEL(0286)32－5105(代表)
	太田営業所	太田市高林東町2375	〒373	TEL(0276)38－6571(代表)
信越・北陸地区	新潟支店	三条市曲渕3-2-15	〒955	TEL(0256)32－2121(代表)
	三条サービスセンター	三条市曲渕3-2-15	〒955	TEL(0256)32－2129(代表)
	新潟東営業所	新潟市江南1-6-41	〒950	TEL(025)286－9131(代表)
	長野営業所	長野市大豆島5312	〒381	TEL(026)221－5111(代表)
	上越営業所	新井市上百々廻田100	〒944	TEL(0255)73－7511(代表)
	松本営業所	松本市笹賀5824-2	〒399	TEL(0263)26－0051(代表)
	上田出張所	上田市国分1-3-28　稲高ビル1F	〒386	TEL(0268)26－5011(代表)
	金沢支店	金沢市古府1-203	〒920-03	TEL(0762)40－0567(代表)
	金沢サービスセンター	金沢市古府1-203	〒920-03	TEL(0762)40－6055(代表)
	富山営業所	富山市大泉東町1-4-16　稲場ビル1F	〒939	TEL(0764)22－0567(代表)
	福井営業所	福井市和田東1-607	〒910	TEL(0776)23－0567(代表)
東海地区	名古屋支店	名古屋市港区入場1-1903	〒455	TEL(052)383－3330(代表)
	名古屋サービスセンター	名古屋市港区入場1-1901	〒455	TEL(052)384－5670(代表)
	静岡営業所	静岡市高松2-15-30	〒422	TEL(054)238－0005(代表)
	岐阜営業所	岐阜市薮田南3-2-17	〒500	TEL(058)247－3661(代表)
	津営業所	津市高茶屋小森町出ノ上2942-1	〒514	TEL(0592)34－8471(代表)
	浜松出張所	浜松市小池町2548-4	〒435	TEL(053)460－5676(代表)
	沼津出張所	沼津市神田町7-26	〒410	TEL(0559)24－0010(代表)
	岡崎出張所	岡崎市大平町沢渡49	〒444	TEL(0564)25－0275(代表)
近畿・四国地区	大阪支店	吹田市南金田1-8-47	〒564	TEL(06) 380－2111(代表)
	大阪サービスセンター	吹田市南金田1-8-47	〒564	TEL(06) 386－5670(代表)
	高松営業所	高松市上福岡町2015-3	〒760	TEL(0878)35－1711(代表)
	京都営業所	京都市伏見区竹田中島町14	〒612	TEL(075)643－2002(代表)
	姫路営業所	姫路市飾磨区構4-33	〒672	TEL(0792)34－2911(代表)
	彦根営業所	彦根市正法寺町南出78	〒522	TEL(0749)24－6239(代表)
	高知出張所	高知市鴨部276	〒780	TEL(0888)40－1400(代表)
	徳島出張所	徳島市名東町3-257-1	〒770	TEL(0886)31－4048(代表)
	福知山出張所	福知山市和久市町308	〒620	TEL(0773)22－0927(代表)
	松山出張所	松山市東長戸4-5-38	〒791	TEL(089)927－1654(代表)
	豊岡出張所	豊岡市幸町4-4	〒668	TEL(0796)24－4107(代表)
中国地区	広島支店	広島市安佐南区祇園町南下安700	〒731-01	TEL(082)871－3310(代表)
	広島サービスセンター	広島市安佐南区祇園町南下安700	〒731-01	TEL(082)871－3315(代表)
	岡山営業所	岡山市辰巳35-103	〒700	TEL(086)243－7751(代表)
	米子営業所	米子市目久美町235-1	〒683	TEL(0859)33－8157(代表)
	徳山営業所	徳山市栖本町1-9-25	〒745	TEL(0834)28－8637(代表)
	福山出張所	福山市春日町5-6-37	〒721	TEL(0849)45－2367(代表)
	出雲出張所	出雲市塩冶町978　大貫ビル1F	〒693	TEL(0853)21－8898(代表)
九州地区	福岡支店	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812	TEL(092)474－5771(代表)
	福岡サービスセンター	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812	TEL(092)474－6001(代表)
	北九州営業所	北九州市小倉北区愛宕2-6-4	〒803	TEL(093)592－8611(代表)
	鹿児島営業所	鹿児島市田上7-16-5	〒890	TEL(099)281－1321(代表)
	熊本営業所	熊本市健軍1-31-7	〒862	TEL(096)367－7361(代表)
	長崎営業所	西彼杵郡時津町元村郷1202-2	〒851-21	TEL(0958)82－7710(代表)
	宮崎営業所	宮崎市霧島3-59-2	〒880	TEL(0985)29－1680(代表)
	大分出張所	大分市東浜1-13-16	〒870	TEL(0975)58－1030(代表)
沖縄地区	沖縄出張所	浦添市大平392-1	〒901-21	TEL(098)879－0677(代表)

本社・工場	三条市東新保7-7	〒955	TEL(0256)32－2111(大代表)
柏崎工場	柏崎市宝町2-58	〒945	TEL(0257)23－5175(代表)
長岡工場	長岡市下条町窓ノ洲1069	〒940-11	TEL(0258)22－2121(代表)

株式会社コロナ

PQRST

103WA0119-0 1 2 3 dsp 8